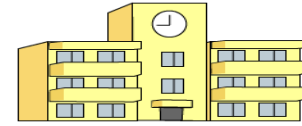


特別支援教育の充実について

基本理念

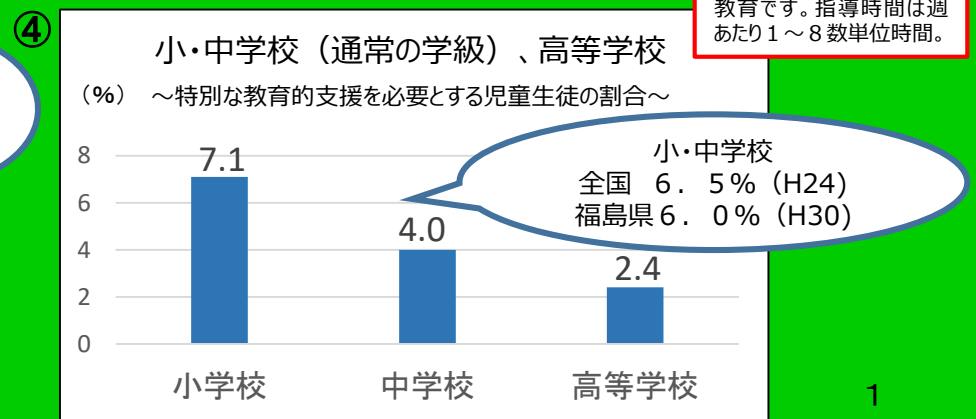
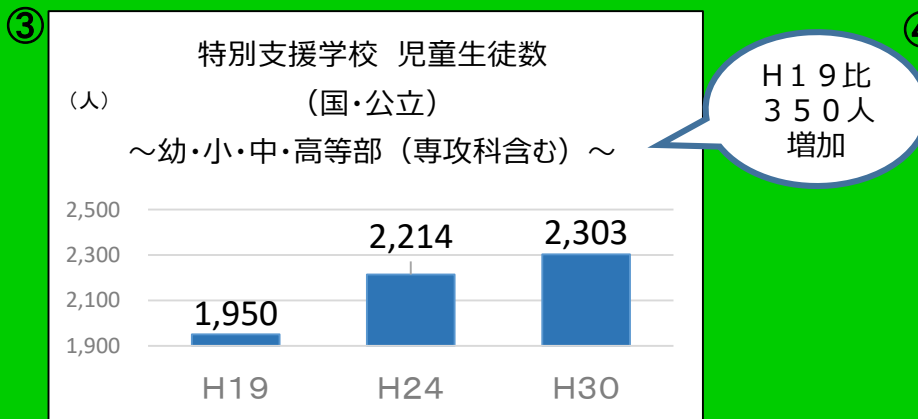
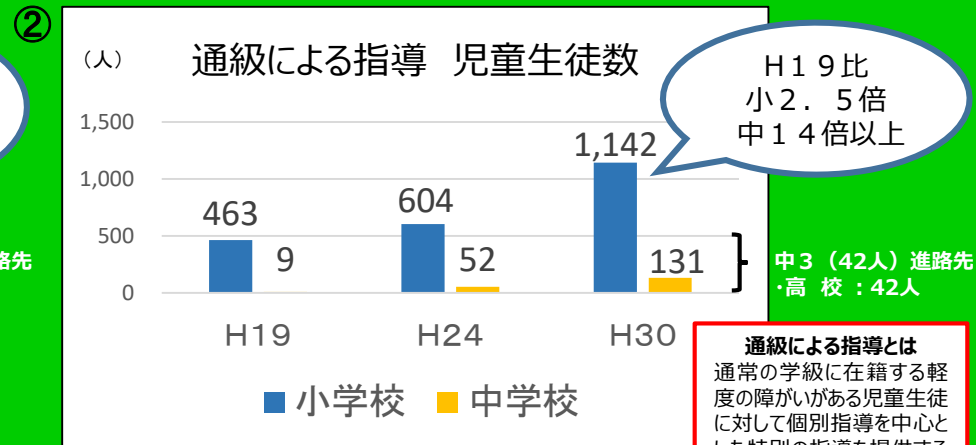
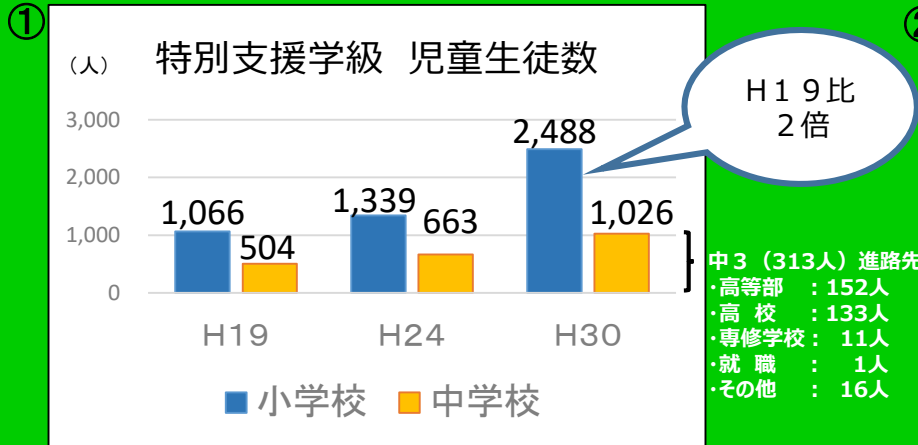
「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進

福島県学校教育審議会 答申 平成21年9月18日

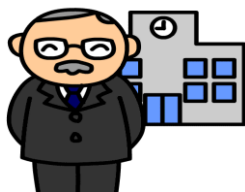
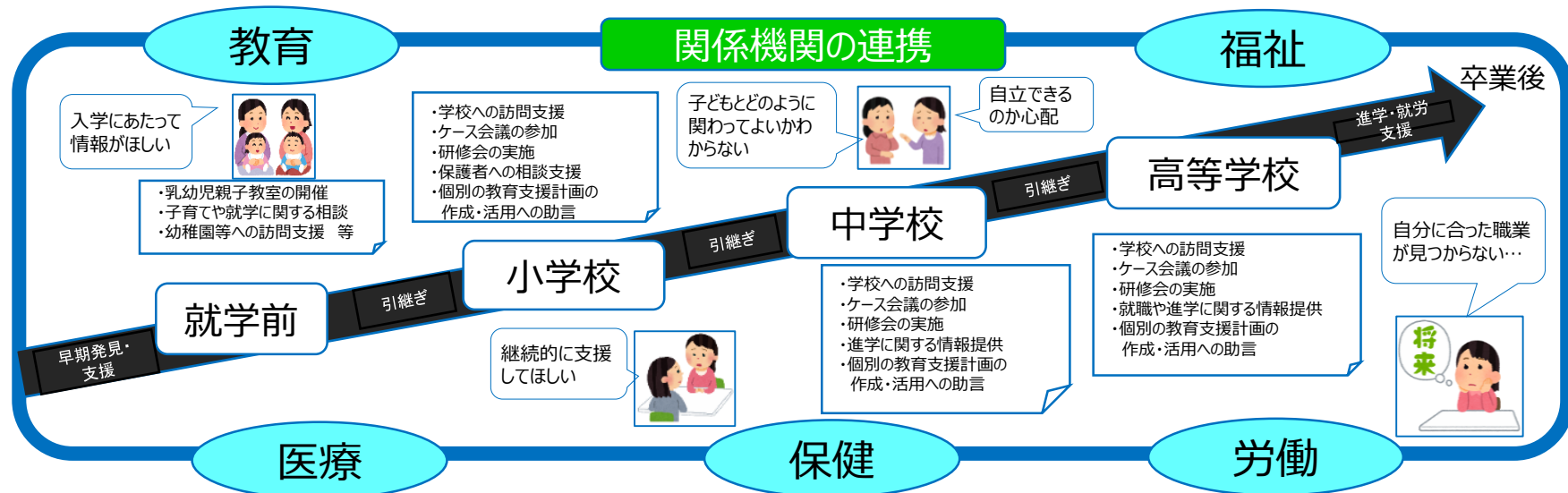


現状

- ① 小・中学校の特別支援学級在籍児童生徒数の増加 H19と比べると2倍以上（本県）
- ② 小・中学校の通級による指導の児童生徒数の増加 H19と比べると小学校で2.5倍、中学校で1.4倍以上（本県）
- ③ 特別支援学校の児童生徒数の増加 H19と比べると約350人の増加（本県）
- ④ 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の在籍状況 小学校・通常の学級（7.1%）、中学校・通常の学級（4.0%）、高等学校（2.4%）



障がいのあるなしにかかわらず、安心して学べる、子育てできる「ふくしま」を目指します



個別の教育支援計画
障がいのある幼児・児童・生徒一人一人のニーズを把握し、長期的な支援を学校・園が中心となって関係機関と連携し教育を行うための計画です。情報や支援内容の**引き継ぎ**に大きく役立ちます。
(H30 作成率 96.0%)

地域支援チーム

- 特別支援学校
- 各教育事務所
- 特別支援教育センター

<相談支援>

- ・専門的な助言や指導方法のアドバイス
- ・子育て相談や就学相談

<研修支援>

- ・校内研修での講師派遣
- ・個別の教育支援計画の作成に関する助言

<連絡・調整>

- ・教育、医療、保健、福祉、労働等への連絡・調整

地域で共に学ぶために

1 小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実

【小・中学校】

① 特別支援教育支援員の配置

- ・各市町村教育委員会が主となり、特別な支援が必要な児童生徒への支援の充実を図るために学習支援員を配置している。

(H30：小学校619名、中学校152名 計771名)

② 視覚障がい支援講師の配置

- ・通常学級に在籍する視覚障がい児の支援のために講師を配置している。

(R1：小学校3校、中学校1校に講師を配置)

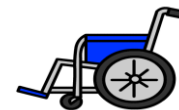


【高等学校】

① 身体に障がいのある生徒への介助員の配置

- ・肢体不自由等の障がいがあり、段差等における自力走行が不可能な生徒が在籍する高等学校に対し、介助員を配置している。

(R1：6校に介助員を配置)



② 学習支援員の配置

- ・発達障がい等のある生徒が多く在籍する高等学校に学習支援員を配置している。(R1：18校に学習支援員を配置)

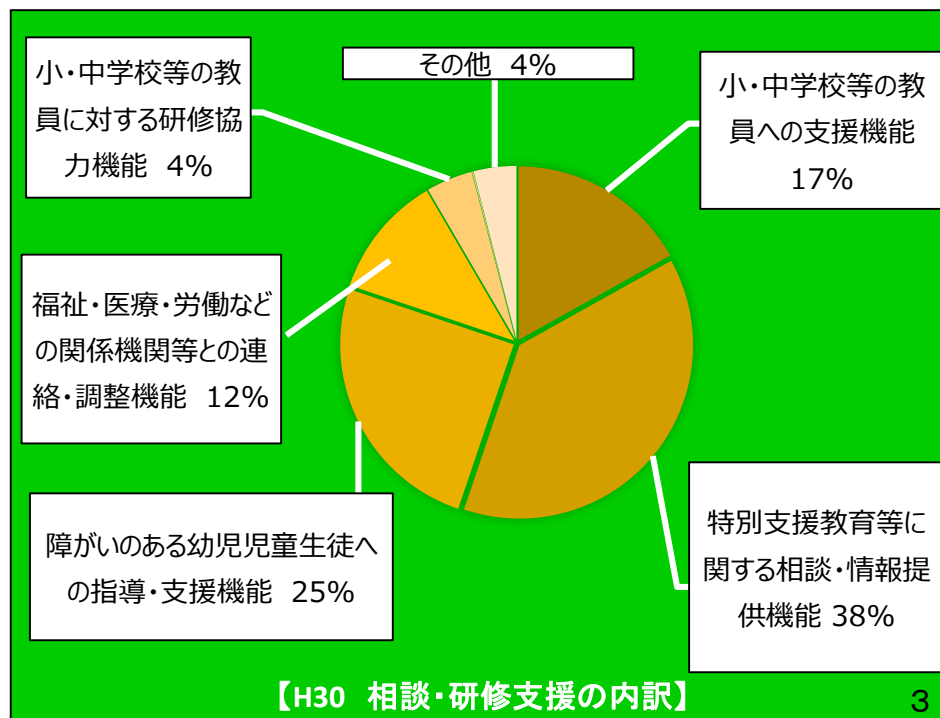
2 切れ目のない支援体制の整備充実

【取組】

- すべての特別支援学校（23校）に地域支援センターを設置
- 本校15校に教育支援アドバイザを1名ずつ配置
- 相談の充実や関係機関等との連携強化を図っている。

【相談・研修支援件数】

	H29	H30
来校相談	1,292 件	1,424 件
出掛ける支援	1,392 件	1,146 件
教育支援 アドバイザーの相談		870 件
合計	2,684 件	3,440 件



地域で共に生きるために

3 交流及び共同学習の推進

【目的】

- 共生社会の形成
- 児童生徒の経験を広める
- 相互理解を図る
- 理解啓発を図る

<学校間交流>



<地域との交流>



4 社会参加に向けた取組

(1) 特別支援学校作業技能大会の開催 (H25～)

【目的】

- 高等部生徒の日頃の学習成果を発表する場
- 高等部生の一般就労を促進する
- 企業等への理解啓発を図る



【特別支援学校高等部卒業生 就職率の推移】

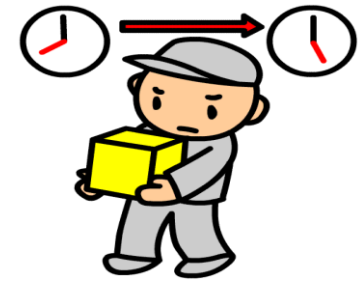
<H26～H30 就職率>

	H26	H27	H28	H29	H30
福島県	18.4%	17.1%	20.1%	23.6%	25.4%
全国	28.4%	28.8%	29.4%	30.1%	—

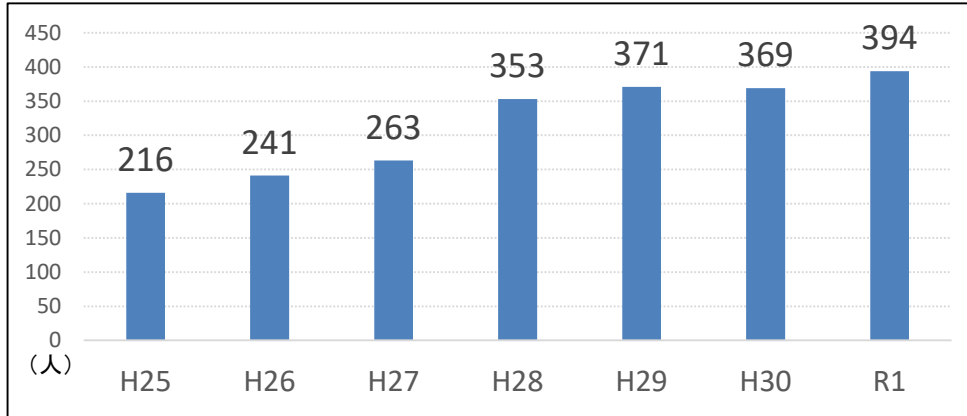
H26比で
就職率は
7ポイント
上がって
います。

(2) 第7回特別支援学校作業技能大会

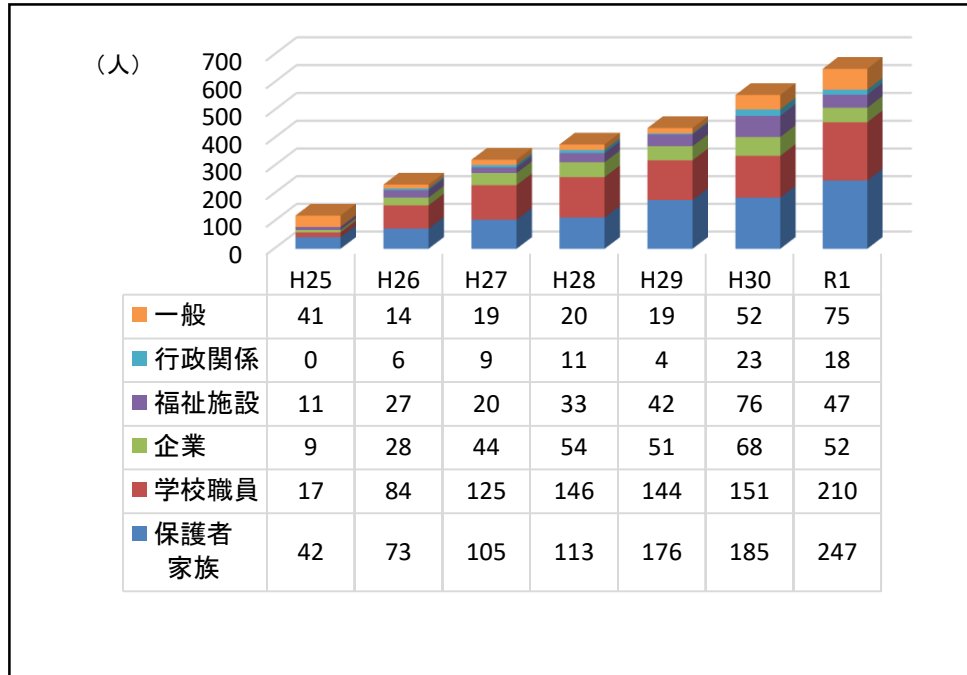
日時：令和元年8月2日（金） 場所：ビッグパレットふくしま



① 参加生徒数



② 入場者数



③ 大会の様子

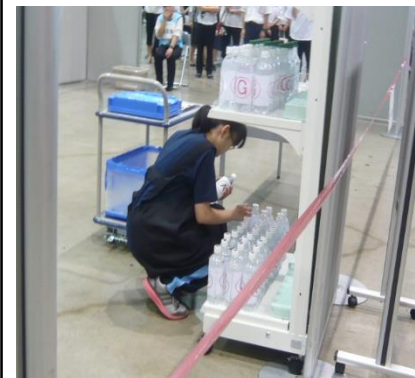
<ビルクリーニング検定>



<喫茶・接客サービス検定>



<店舗販売検定>



<パソコンデータ入力検定>

